

大学を核としたベンチャー創出・ イノベーションコミュニティの作り方

第1回 産学官連携推進会議
「大学発ベンチャーの育成」分科会

2002年6月15日

ブレークスルー パートナーズ

赤羽 雄二

akaba@b-t-partners.com

www.b-t-partners.com

「大学発ベンチャー」への誤解、間違った期待

「大学の先生が社長になることが、大学発ベンチャー」



大学での研究成果、大学周辺の人材、民間の活力が触発現象を起こし、事業意欲が刺激され、ベンチャーが次々に生み出されていく

「優れた研究成果があれば、いいベンチャーができる」



優れた研究成果は、ベンチャー成功の必要条件の1つにすぎない

「特許をいくつか取得したので、きっと、ベンチャーは成功するはず」



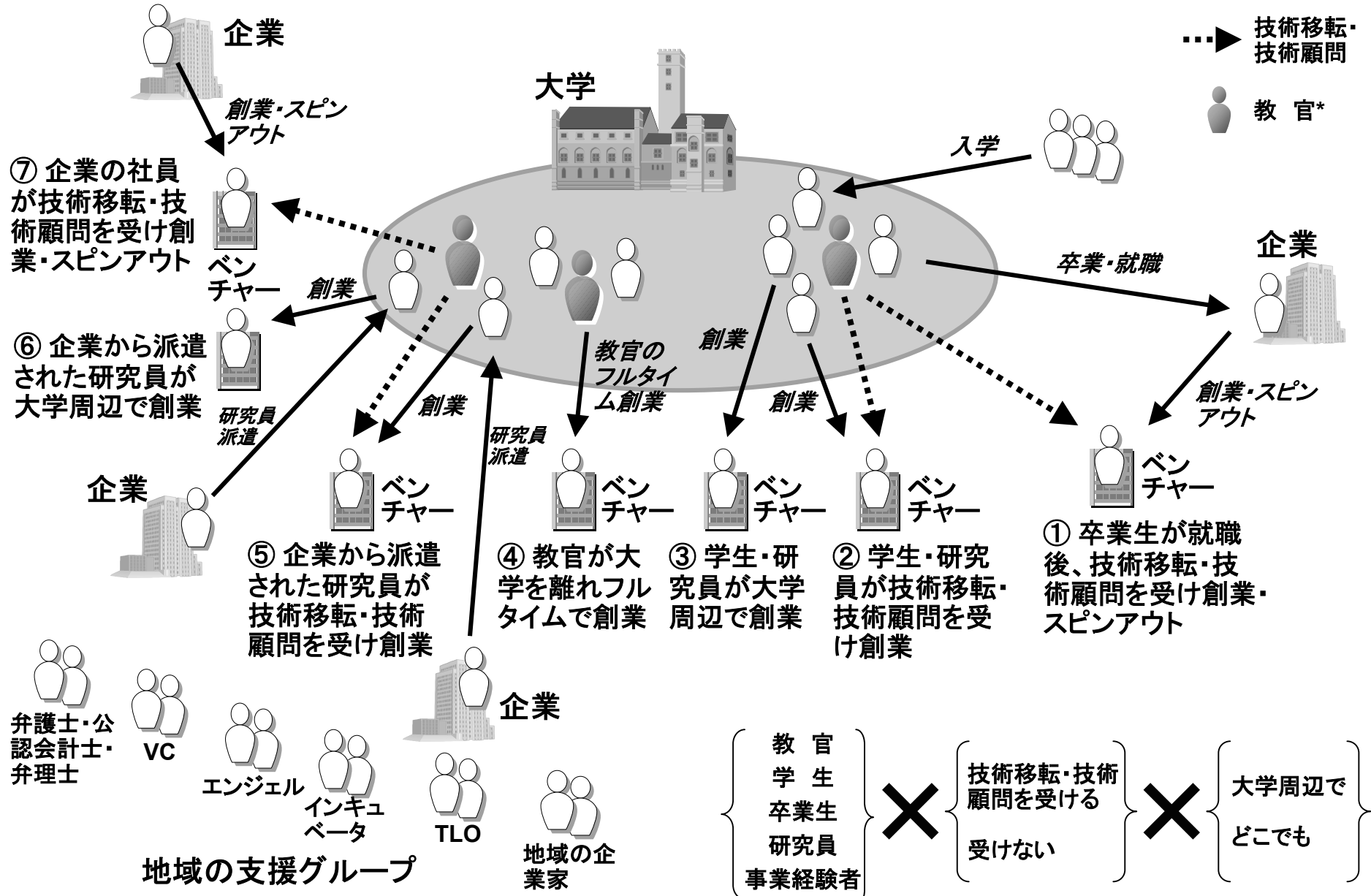
それだけでは不十分。周辺特許も含め、明確な特許戦略が必要。しかも、特許だけでは、まだ不十分

「研究成果は、専門家じゃないと分からない」



専門家ではない人でも、重要性・競合優位性・事業性を理解し、説明できなければならない

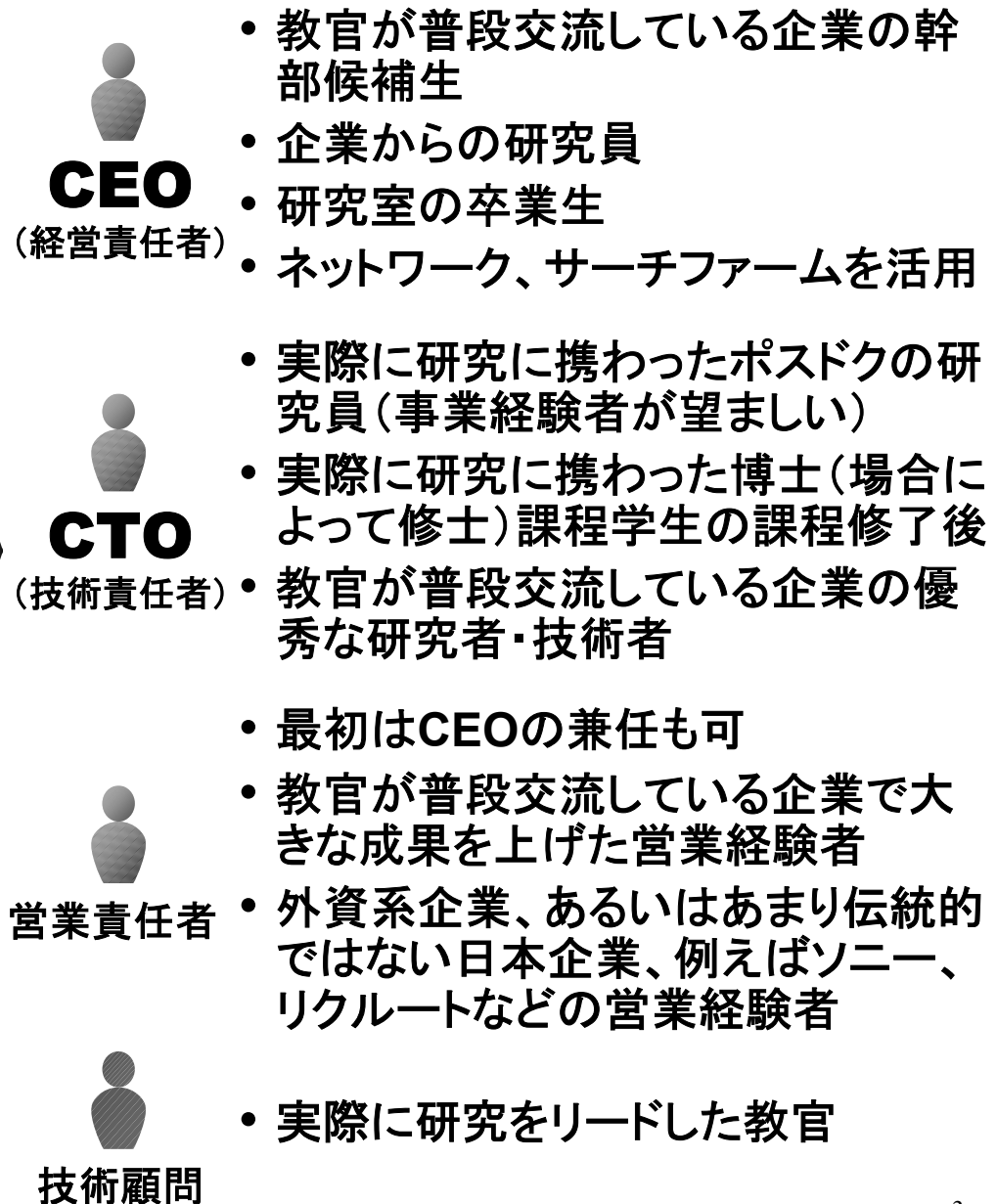
大学を核とした、ベンチャー創出コミュニティ



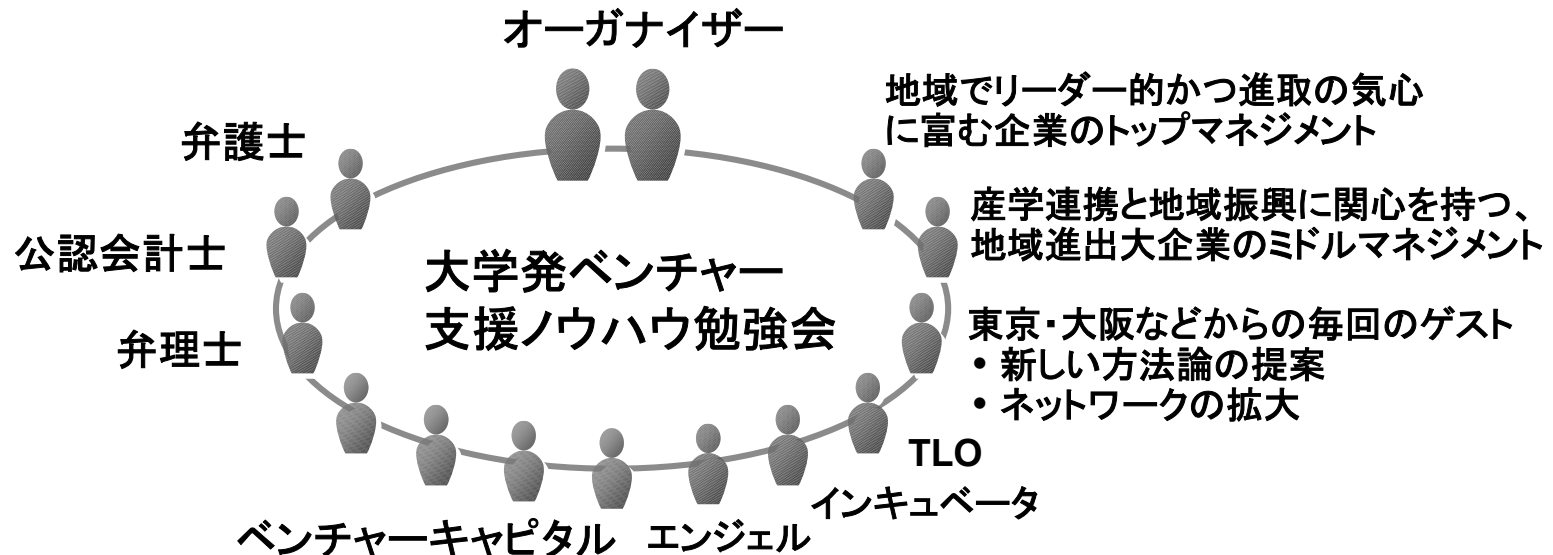
* 教授・助教授・助手・講師など

「大学発ベンチャー」の準備と創業チーム

- 強い事業意欲を持つ数名が刺激しあい、ベンチャー創業を目指す。事業への燃えるような意欲が大前提
- 数ヶ月以上にわたり、徹底して検討する
 - その技術をベースに作る商品の市場が本当にあるのか
 - その商品がないと困るお客は誰か
 - 具体的にどう売するのか
 - 何で儲けるのか
- 創業時には、一定以上のスキル・経験を持つ経営チームの確保が不可欠(当初のメンバーで不十分なら、強化する)



地域ごとに「ハンズオン支援能力を持つVC」の育成が急務... 支援グループ作りの一環



- 大学発ベンチャーの育成には、「ハンズオン支援能力を持つベンチャーキャピタル」が必要であるが、現状では日本にはまだ少数
- 対応策として、大学、地域のキーパーソンが、活動に積極的なベンチャーキャピタル4~5社に声をかけ、2ヶ月に一度程度、ハンズオン支援のノウハウ共有化とスキル向上を目指した勉強会を開くことが有効
 - 成功・失敗事例をシェアする
 - お互いのやり方、姿勢を深く知る
 - コミットメント、支援ムードを盛り上げる
- 企業のマネジメント、エンジェル、TLO、弁護士、公認会計士、弁理士などの参加も仰ぎ、地域ごとに支援グループを組織化、支援ノウハウの蓄積を図ることが必要

「大学発ベンチャー」を支援するベンチャー キャピタルが持つべき、ハンズオン支援能力

- 教官および創業チームの信頼を得られる真摯な姿勢、強い熱意、豊富な実務経験を持つ
- 事業化の観点から、研究成果の本質的意味と課題を深く理解する
- ターゲットとする顧客の具体的なイメージを持ち、大きな事業構想を描くことができる
- 豊富なネットワークとサーチファームを活用して必要な人材を選定し、説得し、コミットさせることができる
- 創業チームを支援し、戦略性の高い、質の高い事業計画を作成することができる
- 幅広いネットワークを活用し、資金の調達、顧客の紹介、戦略的提携の推進ができる
- 環境・競合状況の変化、事業計画の推進状況を常に把握し、ダイナミックな戦略転換、事業計画の見直しをリードできる

現状とのギャップは大きい。ノウハウの共有化などを通じた早急なスキル向上が必要

最後に：大学を核としたベンチャー創出 コミュニティを生み出すための大前提

- 大学の教官の高い流動性(大学と民間、大学間)
- 助手、助教授は他研究室から選定
- 外国人教官の大幅採用
- TLOの社長、ライセンス・アソシエートは民間企業から採用
- 小中学校から、合理的思考・論理的ディスカッション能力を徹底的に訓練(外国人教官を活用)
- 理系・文系を問わず、ビジネスの基礎となる科目を強化(講師は、民間から容易に確保できる)
- 社会人学生的大幅増加
- インターン制の大幅拡大

産業界のみならず、社会の
行動規範の変革が必要